（おもて面）

大阪じょう東部地区のまちづくりの方向性（概要）

大阪府・大阪市　二千二十年九月

# １．大阪じょう東部地区の現況と動向

## （１）地区の位置付け

・グランドデザイン・大阪（二千十二年､府市）では､大阪じょう公園と周辺のにぎわい創出および森の宮周辺の活性化を図ることとしている。

・文化・観光・学術・交流機能が集積する東西都市軸じょうに位置する重要拠点である。

・東西都市軸じょうの東の拠点としての当地区の重要性が高まっている。

・当地区での魅力あふれる新都市空間の創造は、大阪全体の発展を牽引する。

## （２）地区のポテンシャル（外部要因）

・良好な交通しべん性および、大阪じょう公園と一体となった、大阪を代表する拠点となり得るポテンシャルを有する。

・大阪じょう公園周辺地区との回遊性向上、大阪じょう公園の豊かな緑と一体となったまちづくりにより、エリア全体での活性化が可能である。

・京橋・ＯＢＰ･天満橋駅周辺等との相互連携をはかり、エリア全体の活力を創出する。

## （３）地区内の現況と課題（内部要因）

・低・未利用地、鉄道施設等の存在により、高度な都市てき利用がなされず、地区のポテンシャルが活かされていない。

・大阪じょう方面へのアクセスや、地区内のしょうし高齢化、生活利便系の施設不足等の課題解決が必要である。

## （４）これまでのまちづくりの経過

二千十二年四月

・森の宮工場（ごみ焼却工場）の建て替え計画の中止決定

二千十二年六月

・グランドデザイン・大阪の策定

二千十四年十二月

・府立成人病センター跡地等のまちづくり方針の策定

二千十六年七月

・大阪じょう東部地区のまちづくりの方向性（素案）取りまとめ

二千十七年三月

・地区内市有地の有効活用に係るマーケット・リサーチ結果公表

二千十八年十一月

・旧府立成人病センター跡地等に関するマーケット・リサーチ結果公表

二千十八年十二月

・ごみ焼却工場４工場（森の宮工場等）の都市計画廃止

二千二十年一月

・新大学基本構想（府・市・公立大学法人大阪）の策定

二千二十年三月

・大阪スマートシティ戦略 バージョン１　e-OSAKAをめざしての策定

## （５）地区を取り巻く新たな動向

### １）新大学都心キャンパスの立地

・二千二十年一月に府・市・公立大学法人大阪の三者で新大学基本構想を策定した

→二千二十五年度をめどに都心メインキャンパスを森の宮に整備

→基幹教育、都市シンクタンク機能や技術インキュベーション機能の拠点ほかを配置、民間活用導入検討など

・早期に利用可能な土地である「もと建て替え計画用地」で、森の宮キャンパスの学舎整備を進める方針を府市で決定した。

### ２）大阪スマートシティ戦略（大阪スマートシティ戦略 バージョン１e-OSAKAをめざしてより）

・森の宮エリアでは健康医療・環境等の既存資源を活かしたスマートシティの実証・実装フィールドとしての活用を検討している。

# ２．大阪じょう東部地区のまちづくりコンセプト及び戦略

## コンセプト　大学とともに成長するイノベーション・フィールド・シティ

・新大学を先導役にして、観光集客・健康医療・人材育成・居住機能の集積により、た世代・多様な人が集い、交流する国際しょくあるまち

## コンセプトを具体化する戦略・シナリオ等

### １．まちにひらかれ､まちとともに成長する「次世代型キャンパスシティ」

１）まちにひらかれたキャンパスシティ・まちとともに成長するキャンパスシティ

### ２．健康医療・環境等の既存資源を活かした「スマートシティの実証・実装フィールド」

１）スマートエネルギー､スマートモビリティ等の実証・実装フィールド

２）スマートエイジングシティの実証・実装フィールド

### ３．多様なひと､機能､空間､主体が交流する「クロスオーバーシティ」

ひと：多様な世代､国籍､目的の人々（学生､住民､就業者､観光客）が集い交流するまち

機能：しょくじゅうゆうがくなどの多様な機能が重層てきに集積し､互いに相乗効果をもたらすまち

空間：大阪じょう公園の緑や水辺空間と一体てきに､公共てき空間と民間空間が調和した､デザイン性のあるまち

主体：産学官民の多様な主体が連携し､エリアマネジメントを展開するまち

# ３．コンセプト及び戦略を受けての展開イメージ

## （１）『次世代型キャンパスシティ』の展開イメージ

１．次世代型キャンパスシティの中核機能・場を「イノベーション・コア」と位置付け。

２．「イノベーション・コア」は、「大学の基本機能」＋「大学が先導役となり展開する機能」を中心に構成。

３．「イノベーション・コア」を中心に、新たなイノベーションが誘発されるよう多様な機能をしゅうせき・連携。

（イノベーション・コアの説明、業務系機能の説明、商業系機能の説明、宿泊系機能の説明、居住・健康医療系機能の説明）

## （２）『スマートシティ』の展開イメージ極力早期に取組みを検討したいテーマ例

１．「モビリティ」

・スマートモビリティを活用した主要ターミナル等からの地区内アクセス確保について検討

２．「へルスケア」

・新大学立地を契機に、森の宮地区で推し進められているスマートエイジング・シティの取組みの拡充を検討

・地域のコミュニティやスマートホスピタルと連携するウエルネススマートシティを市民ときょうそう

## （３）『クロスオーバーシティ』の展開イメージ

１．ひと：住民・就業者だけでなく､大学関係者や観光客など新たなひとの交流を促進

２．機能：イノベーション・コアを中心に、多様な機能が交流･連携しイノベーションを誘発

鉄道施設や下水処理じょう等の上部利用などにより､重層てきな土地利用促進を検討

３．空間：大阪じょう公園の緑や水辺空間と一体てきな､緑豊富な空間や水辺空間の形成検討

　　　　　大阪じょう公園全体の眺望及び大阪じょう天守閣への眺望に配慮した景観形成の検討

　　　　　デザインマネジメントの検討（公共的空間と民間空間との調和、民間施設のデザイン性の確保を促す）

４．主体：都市シンクタンク機能の形成検討（イノベーション・コアを有効に機能させるための産学官民連携組織）

　　　　　エリアマネジメント組織の形成検討（地区の価値向上のため、地権者を中心に､住民･就業者･学生等も参画する組織）

エリアマネジメント連絡会の形成検討（ＯＢＰ・大阪じょう公園・京橋周辺等のまちづくりと連携して活動するための組織）

（おもて面終わり）

（裏面）

# ４．土地利用・基盤整備計画

## （１）基本てきな考え方

・充実した交通インフラや大阪じょう公園に隣接した立地特性を活かし、土地利用転換・機能更新と併せて基盤施設や水辺空間等の整備を進め、東西軸のヒガシの拠点に相応しい土地の高度利用と良好な市街地環境の形成を図る。

## （２）土地利用計画　ゾーニングの考え方

１）『イノベーション・コアゾーン』

１期としては、土地の高度利用を図りながら、まちに開かれた新大学の都心キャンパスを整備する。

１.５期として、民間活力を導入し土地の高度利用を図りながら、大学施設関連機能を中心に、こくさいしょくある業務・しょうぎょう・宿泊・居住などの多様な交流・連携機能等の確保を図る。

２）『親水空間＋立体活用ゾーン』

河川との親水性や大阪じょう公園との一体性を図る。鉄道施設・下水処理じょう等の上部利用等により､立体てきな土地の高度利用を図る。

３）『た世代居住複合ゾーン』

健康医療機能等と連携し、スマートエイジングシティの取組みを展開しながら、多様な世代が健康で安全に住み続けられる、商業・業務なども含めたじゅう環境の実現を図る。

４）『拡張検討ゾーン』

・当面は鉄道施設として継続利用し、将来てきには、社会動向や地区内のまちづくりの動向を踏まえ、上部利用範囲の拡大や土地利用転換等も検討する。

ゾーニングイメージの画像

## （３）基盤整備計画　各種動線の考え方

歩行者空間について

方針：利便性･快適性･安全性に優れた歩行者重視のまちづくり

１）利便性の向上

・将来の交流･定住人口の大幅な増加を見据え、現在不足している鉄道駅と地区内とを円滑に繋ぐ歩行者動線の確保を図る。

２）快適性の向上

・大阪じょう公園や河川空間に接する立地を活かし、水･緑の空間を楽しく回遊でき､健康増進にも資する歩行者動線の確保をはかる。

３）安全性の向上

・歩行者空間の拡充や、密集住宅市街地から大阪じょう公園へ至るふくすうの避難ルートの確保など、交通･防災の両面で安全性向上にも資する歩行者動線の確保を図る。

車両動線について

・車両動線はシンボルアベニュー（仮称）となる豊里矢た線を基本とし、開発に伴い敷地ごとにアクセス動線を確保する。

・スマートモビリティを活用した主要ターミナル等からの地区内アクセス確保について検討する。

主要各動線イメージの画像

# ５．想定される開発の進めかた

※記載する年次はあくまで想定です。確定したものではありません。

１期（二千二十五年四月まで）

イノベーション・コアの整備

１）１期都心キャンパスの整備

設計、建設工事、開校

２）１．５期の施設整備

民間活力導入検討

設計、建設工事、竣工

１．５期（二千二十五年以降できるだけ速やかに）

イノベーション・コアの整備

２）１．５期の施設整備

民間活力導入検討

設計、建設工事、竣工

２期、３期（その他のゾーンでは、イノベーション・コア等が先行立地する優位性を背景に、順次、高度利用化や機能更新をはかる。

２．親水空間＋立体活用ゾーンの整備

３．た世代居住複合ゾーンの整備

４．拡張検討ゾーンの整備

（参考）１期・１．５期の開発展開イメージ（例）※２期・３期の展開イメージについては、順次バージョンアップを図る。

１期整備（二千二十五年四月まで）

◎ハード面での整備イメージ

新大学都心キャンパスの整備

東西動線の整備

◎ソフト面での展開イメージ

大学と地域等との連携（イメージ醸成のためにも大学開所以前の早い段階から順次展開）

例）既存広場や暫定利用空間も活用し、各学科の特徴を活かした地域連携活動を展開

例）ＵＲ団地と連携して､団地居住者と学生との交流活動を展開

様々な活動がシンボルアベニューに表出し「次世代型キャンパスシティ」けいせいの期待を高める

１期開発展開イメージ（例）の画像

１．５期整備（二千二十五年以降できるだけ速やかに）

◎ハード面での整備イメージ

１．５期の施設整備

東西動線（鉄道施設上部）の整備

動線結節点での広場空間確保

もと森の宮工場の暫定利用

◎ソフト面での展開イメージ

・大学と地域等との連携（拡充）

例）シンボル広場空間を核にしながら、大学と地域との連携活動をかくじゅう

・イノベーション・コアの本格稼働

例）可能な分野から随時スマートシティの実証･実装

スマートシティの姿､クロスオーバーシティの姿が広く発信され、民間開発を誘引する

１．５期開発展開イメージ（例）の画像

# ６．二千二十年度以降の取組みイメージ

## 全ゾーン共通

当面取組みを進める主な内容

地区内の土地の高度利用を図る手法の検討

（例）都市再生緊急整備地域における容積緩和の特例措置、都市計画手法等の活用 など

エリアマネジメント組織の形成に向けた検討

・地権者や有識者等を交えた地区内のエリアマネジメント組織

（契機となる初動てきな取組み：デザインコントロール、エリアプロモーション等）

周辺地域と連携したまちづくりの展開の検討

## イノベーション・コアゾーン

当面取組みを進める主な内容

スマートシティ戦略推進のため新大学主体のデータ連携プラットフォームの形成検討

都市シンクタンク機能にかかる検討【府・市・大学法人合同プラットフォーム、（仮称）大阪森の宮リビングラボ】

大学のキャンパス整備にかかる民間活力導入手法の検討

東西動線の確保に向けた整備手法等の検討

## 親水空間＋立体活用ゾーン

当面取組みを進める主な内容

水辺動線の整備手法等の検討

下水道施設の立体てきな土地利用の検討

## た世代居住複合ゾーン

連鎖型都市再生の検討

成人病センター跡地等の活用に向けた検討

## 拡張検討ゾーン

当面取組みを進める主な内容

東西動線の確保に向けた整備手法等の検討（再掲）

（終わり）